

## メキシコの銀行部門の再編

東京大学大学院総合文化研究科 久松 佳彰

国際協力銀行 佐藤 桃\*

### 1. はじめに

1994-5年の経済危機以降、メキシコの銀行部門は大きな変化を遂げた。その変化は二つにまとめることが可能であろう。一つには、メキシコ銀行部門のバランスシート上の変化であり、もう一つは、銀行部門の活発な再編である。従って、本論文の課題も二つある。第一に、メキシコ銀行部門のバランスシート上の変化、すなわち、資産（特に融資）の収縮についてデータと諸文献を用いてサーベイを行なうことである。第二に、個別銀行を主体とする様々な銀行部門の再編について整理を行ない、国際化と集中度の上昇を指摘し、とくに、集中度に関連して商業銀行部門の競争性が確保されているか、個別銀行別のパネルデータを使って実証的な検討を行なうことである。銀行部門の再編に伴う寡占化の悪影響については公的には連邦競争委員会でモニターしているが、例えば、ルイス・ルビオのような銀行部門に詳しい専門家は懸念を表明している<sup>1</sup>。とはいえ、競争条件を国際比較が可能な形で実証的に調べた研究は筆者の知る限りない。本論は、この空白を埋めることを目的としている。

本稿では、上記の視点に絞るため、メキシコ銀行部門に関わる幾つかの問題は取り上げない。第一に、各種産業の支援を行なう公共銀行は取り扱わない。第二に、経済危機以前の銀行部門の再編についても取り扱わない<sup>2</sup>。第三に、メキシコ銀行危機の概説についても取り上げない<sup>3</sup>。第四に、銀行部門の動向をマクロ経済モデルの中で捉えるといった論点についても取り扱わない<sup>4</sup>。最後に、金融部門と国家の関係という政治経済的な論点についても考察を加えない<sup>5</sup>。本稿は、これらの諸問題を研究した重要な先行研究を補完することを目指している。

以下の構成は次の通りである。第2節では、経済危機以降のメキシコの商業銀行部門全体のバランスシートの変化に着目する。資産、なかでも融資の縮小が顕著である。これに関わる理由を検討する。第3節では、個別銀行ベースでその再

編を記述する。再編の特徴は国際化と集中度の上昇であった。第4節では、集中度の上昇から予想される競争性への影響について、個別銀行別のパネルデータを使って統計的な検討を加える。第5節は結論である。

## 2. 1994-5年の経済危機以降のメキシコ銀行部門の動向

### (1) バランスシート上の変化：資産・融資の縮小

経済危機以降の顕著な特徴は資産、特に融資の縮小であった。表1は経済危機以前の1994年9月の商業銀行のバランスシートと2001年9月のバランスシートを比べたものである<sup>6</sup>。この間の消費者物価指数の上昇は101.3から348.0と3.4倍であった。この間、資産額及び預金額は2.8倍に増加したので、商業銀行部門のバランスシートの実質的な収縮があったことが確認できる。融資額の増加は2.1倍であるから融資の縮小はより程度が大きい。資産の縮小を上回る融資の縮小があったことが観察される。

表1 メキシコ商業銀行のバランスシート

1994年9月		2001年9月	
資産 555 (100%)	負債 510 (91.9%)	資産 1569 (100%)	負債 1419 (90.4%)
現金 15 (2.7%)	預金 387 (69.7%)	現金 293 (18.7%)	預金 1087 (69.3%)
証券 67 (12.0%)	その他負債 123 (22.2%)	証券 211 (13.4%)	その他負債 382 (24.3%)
融資(グロス) 433(78.0%)		融資(グロス) 917(58.4%)	
貸倒引当金 -17		貸倒引当金 -59	
その他資産 57 (10.3%)	資本 45 (8.1%)	その他資産 207 (13.2%)	資本 149 (9.5%)

注：単位は十億ペソ。括弧内は対資産比率。1997年の銀行会計変更のため、そのままでは両者のバランスシートは比較できない。このため、1994年9月のバランスシートを新銀行会計に合わせて筆者が修正した。修正点は次の2点である：①買戻約束付き債権・売戻約束付き債務をネット化した、②貸倒引当金を資産側で評価した。なお、2001年9月の融資はIPAB/FOBAPROA(279十億ペソ)債権を含む。

出所：Comisión Nacional Bancaria, *Boletín Estadístico de Banca Múltiple*, Tomo XL, Num. 567 (Septiembre de 1994)、及び Comisión Nacional Bancaria y de Valores, *Boletín Estadístico Banca Múltiple*, Tomo XLVII, Num. 595 (Septiembre de 2001)。

表 2 商業銀行の民間融資実質成長率

年	商業銀行実質民間融資成長率	実質国内総生産成長率
1995	-16.7%	-6.2%
1996	-12.8%	5.1%
1997	-13.0%	6.8%
1998	-11.6%	4.9%
1999	-15.5%	3.7%
2000	-15.3%	6.6%
2001	-12.7%	-0.3%

注：商業銀行民間融資は UDIS 計画債券及び IPAB/FOBAPROA 債券ではなく、UDIS 計画の原資産と IPAB/FOBAPROA の原資産を含む。実質化は、メキシコ中央銀行が発表する消費者物価指数を用いて行なった。増加率は、年末間において計算した。実質国内総生産の基準年は 1993 年である。

出所：メキシコ中央銀行ウェブ・サイト<<http://www.banxico.org.mx/>>、国立統計地理情報院ウェブ・サイト<<http://www.inegi.gob.mx/>>。

銀行資産の縮小は経済規模との比較で測ることもできる。1994 年において 9.7%であった商業銀行資産の対国内総生産比率は、2001 年には 6.8%に縮小した<sup>7</sup>。物価でデフレートした実質民間融資残高は一貫して減少傾向にある（表 2）。

## (2) 融資額の減少の原因

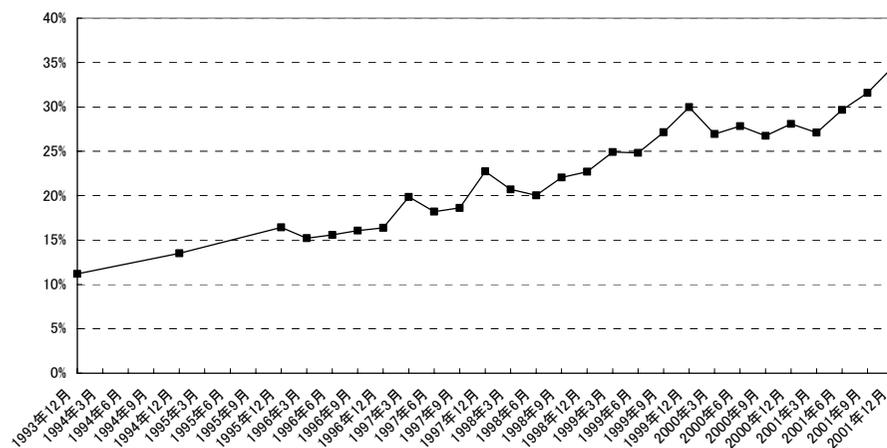
銀行が国内資金供給を収縮した原因として、銀行危機において明らかになった債権回収についての法的不備と、銀行危機への対策である不良債権処理計画の効果、さらには期間構造の近年の変化があげられる。

銀行危機は国内総生産の約 20%程度の財政費用がかかると見積もられたほど重大なものであった<sup>8</sup>。この銀行危機の過程で、貸出債権を裏付ける担保の回収の遅延及び緩慢な破産処理という法的不備が明らかになった<sup>9</sup>。銀行にとって担保が迅速に回収可能でない場合、担保融資にリスクが高まり融資を行ないにくくなる。また、緩慢な破産処理も融資に関するリスクを高めることが予想される。このため、危機後の銀行の融資に対する慎重な姿勢が説明できよう。

これらの不備に対応する法整備は進行中である。担保の回収についての法律および破産法は 2000 年に成立した<sup>10</sup>。担保回収にあたっては相違点が裁判に持ち込まれた場合に長期間にわたって審理が続き、迅速な債権処理ができないということが問題になっていたため、この点が修正された。破産法についても、債務者による再建計画作成について期限が設定され、再建計画に債権者が同意しない場合には一定期間を置いて清算過程に入り、清算を司法が阻止できないことが明文化された。以上の法整備により融資への慎重姿勢の改善が期待される。

他方、融資収縮の原因として不良債権処理計画の効果も挙げられる。政府は、銀行再建計画の一環として、銀行の資本金の増加を促すために、銀行預金保護基金（FOBAPROA）を通じて銀行が保有する不良債権を FOBAPROA 債券と交換するプログラムを行った。この後、同債券は、金融預金保護機構（IPAB）の発足と共に IPAB 債と交換された<sup>11</sup>。本債券は5年また10年物で、交換不可能、短期国債（CETES）金利もしくは銀行間金利(TIIE)と連動した金利は元加されるため、銀行は同債券を保有する間、原資産の損失から切り離されたが、同時に同債券の売却や金利の受け取りによる流動性を得ることができない<sup>12</sup>。このため、流動性を得るために新規貸出を抑制する結果をもたらした。このことが、同債券を保有する銀行が貸し出しを伸ばすことができない原因となった。図1のように、流動性・総資産比率は危機後、上昇傾向が続いている。

図1 流動性資産・総資産比率



注：流動性資産は、現金、売戻約束付き債券と買戻約束付き債券のネット額、証券保有額（IPAB/FOBAPROA債を除く）の合計。  
 出所：Comisión Nacional Bancaria y de Valores, Boletín Estadístico Banca Múltiple, various issues.

銀行再建プログラムが開始された1995年以降、商業銀行が保有するIPAB/FOBAPROA債券は、98年12月末に3,255億ペソ（対GDP比9%）まで増加し、商業銀行による国内資金供給の28%を占めた<sup>13</sup>。IPAB/FOBAPROA債券は99年以降実質ベースで減少しているものの、国内資金供給額に占める同債券の割合は2001年12月末時点で30%と、依然として大きな割合を占めている。

先に挙げた法的整備の遅れ及びIPAB/FOBAPROA債の効果に加えて、近年の要因としてマクロ経済の安定化による期間構造の変化も指摘できよう。メキシコ中央銀行は、銀行融資の平均期間は1999年において48日～60日、2000年において55日～68日、2001年において65日～100日と融資が長期化していることを示し

ている<sup>14</sup>。これはコマーシャル・ペーパーや国債の動向とも連動しており、経済の安定化の影響であるとメキシコ中央銀行は評価している。この間の預金期間については、2000年12月においては、定期預金に関して26日、預金全体に関しては17日であったのが、2001年12月には前者が19日、後者が11日と減少している<sup>15</sup>。この融資・預金面での期間の変化により、銀行にとっては期間構造による金利リスクがより大きくなっている<sup>16</sup>。この要因によって銀行にとっては融資を収縮し、流動性を高めようとするインセンティブが働くと考えられる。近年の融資収縮（表2）、流動性保有率の増加（図1）についてはこのような金利リスク要因も考えられる。

### （3）銀行融資の減少と経済成長との無関係

表2からわかる興味深い事実は、対民間融資の減少と国内総生産の増加が同時に起きたことである。その説明は二つ考えられる。第一に、北米自由貿易協定以降の外需が成長を支えたため、国際資本市場が資金を供給したことが考えられる<sup>17</sup>。第二に、国内でも商業銀行以外の融資供与があったことが考えられる。世界銀行のエコノミストであるモンテス＝ネグレット及びランダは、民間部門への資金提供について1994年12月においては国内非銀行、国内銀行、海外融資の割合は8%、73%、19%であったのに対して、1999年12月において同比率は12%、59%、30%であると指摘している<sup>18</sup>。

メキシコ中央銀行の統計によれば、民間部門の資金調達の中で国内銀行融資以外の形態が占める割合は、1996年の30%から2001年第3四半期の53%へ拡大した<sup>19</sup>。1998年以降メキシコ中央銀行が民間企業を対象に行っているアンケート調査によると、サプライヤークレジットや海外からの資金調達などが増加している<sup>20</sup>。2001年第4四半期の同調査によると、企業による資金調達源は最も多い順に、サプライヤー52.3%、商業銀行21.4%、株式グループ内の企業12.8%、外国銀行5.3%となっている。商業銀行の融資は、資金調達の2割程度しか占めておらず、民間企業はむしろ銀行以外からの資金調達に頼る傾向にあることが窺える。同調査によると、調査対象となった企業は、商業銀行から借入を受けなかった理由として、高金利、銀行の貸し渋りなどを挙げている。また、資金調達源は企業規模別に異なっている。大企業では、商業銀行からの借り入れが資金調達の30%を占めているほか、海外からの借り入れが他に比べて多い。一方、中小企業では、商業銀行からの借り入れは20%に達しておらず、全体の60%を占めるサプライヤーからの借入により資金調達を行っている。

### 3. 銀行部門の再編

#### (1) 主だった銀行再編の動向

94年末からの経済危機は、不良債権の増加と自己資本比率の低下を銀行システムにもたらした。政府は CNBV および FOBAPROA を中心に銀行部門の救済に乗り出した。救済策として債務者救済及び債権者救済策が用意された他、多額の不良債権を抱える銀行に対しては CNBV と FOBAPROA の直接支援により銀行への介入及び資産の売却が行われた。

この過程におけるメキシコ銀行部門の特徴は、積極的な外国銀行の参加による統合があったことである。外国銀行の関与により、国際化そして大銀行への集中が起きた。95年から98年までの間に FOBAPROA による直接支援を受けた銀行は20行に上った。

表3は、1994年9月時点での商業銀行の資産の大きさを基準として部門全体の総資産の90%を占める銀行までを並べたものである。全てが国内資本による銀行であったが、2行を除いて外国資本主導による買収を経ていることが確認できる。

表3 メキシコにおける主要商業銀行（1994年9月）

銀行名(1994年9月時点)	総資産(1994年9月時点)	その後の再編過程
Banamex	152,211	2001年 Citibank により買収
Bancomer	129,227	2000年 BBV により買収
Serfin	90,952	2000年 Santander により買収
Comermex	41,707	2000年 Scotiabank が55%株式購入
Mexicano Somex	50,520	1997年 Santander が51%株式購入
Atlántico	41,305	2001年 Bital により買収
Internacional	38,718	Bital と改称して現在まで存続
Banpaís	26,143	1997年 Banorte により買収
Bancreser	20,044	2001年 Banorte により買収
Mercantil Probursa	19,441	1995年 BBV により買収
Promex	17,363	1998年 BANCOMER により買収
Confía	15,991	1997年 Citibank により買収
Mercantil del Norte (Banorte)	15,659	現在まで存続
Centro	15,051	1995年 Banorte により買収
小計	644,230 (90%)	
銀行部門	711,892 (100%)	

注：総資産の単位は100万ペソ。Citibank: 米国資本、BBV (Banco Bilbao Vizcaya): スペイン資本、Santander: スペイン資本、Scotiabank: カナダ資本、Bital: メキシコ資本、Banorte: メキシコ資本。

出所：Comisión Nacional Bancaria, *Boletín Estadístico de Banca Múltiple*, Tomo XL, Num. 567 (Septiembre de 1994)、及び *Expansión*, No. 827 (31 de Octubre 2001)。

表 4 は、2001 年 12 月時点での商業銀行の資産の大きさを基準として部門全体の総資産の 90%を占める銀行までを並べたものである。一見して、資本関係において、米国・カナダ・スペイン資本がその多くを占めていることがわかる。同時に、90%を占める銀行数が 1994 年 9 月の 14 行から 10 行にまで減少していることも確認できる。すなわち、メキシコ商業銀行部門は集中度を強めている。

表 4 メキシコにおける主要商業銀行 (2001 年 12 月)

銀行名(2001 年 12 月時点)	総資産(2001 年 12 月時点)	資本関係
BBV/Bancomer	415,111	スペイン資本
Banamex	365,992	米国資本
Serfin	136,603	スペイン資本
Bital	135,014	国内資本
Santander Mexicano	114,112	スペイン資本
Mercantil del Norte (Banorte)	99,389	国内資本
Scotiabank Inverlat	85,358	カナダ資本
Inbursa	49,476	国内資本
J. P. Morgan	16,812	米国資本
BankBoston	16,648	米国資本
小計	1,434,516 (91%)	
銀行部門	1,584,859 (100%)	

注：総資産の単位は 100 万ペソ。

出所：Comisión Nacional Bancaria y de Valores, *Boletín Estadístico Banca Múltiple*, Tomo XLVII, Número 596 (diciembre 2001).

このようにメキシコ商業銀行部門においては、国際化と集中度の上昇が再編の結果として生じたことがわかる。

## (2) 大銀行への集中

1999 年に入り、メキシコ銀行部門への外資参入規制が緩和されたことを受けて、外資系銀行はメキシコ銀行市場への積極的な参入を展開した。2001 年末までの 2 年間で、現地銀行の上位 3 行が外資系銀行との統合を果たしたことで、外資系銀行が銀行部門の総資産 70%以上を占めるに至った。メキシコにおける外国銀行の商業銀行部門への効果については先行研究がある<sup>21</sup>。

銀行再建計画の過程で、主として中小銀行が、大銀行に統合されるか、または資産売却されることによって、銀行部門の大銀行への集中が高まった。資本関係を考慮して整理した総資産上位 5 大銀行グループの総資産合計の全体に占める割合は、1994 年 9 月において 64%であったが、1997 年 12 月には 73%、2001 年 12 月には 80%に達した<sup>22</sup>。以上のような銀行の再編は、買収・統合によって行なわ

れていた。銀行業への新規免許譲許による新規参入は2002年における小売企業である Grupo Electrica による Banca Azteca が経済危機以来、最初であった。

集中度の上昇は寡占を引き起こし、競争性に影響を与えることが予想される。しかし、メキシコの場合は二つの留保要因がある。一つには、前述したようなサブプライヤークレジットのような非銀行融資の存在である。これは、銀行以外にも銀行と競争する国内アクターの存在を示している。もう一つは、海外アクターとの競争である。融資面においては外国銀行からの貸し出しがあることは前述した。このため、特に輸出能力のある企業に対しては、外国銀行と国内銀行が融資面で競争していることになる。預金面でもアメリカとの密接な経済関係による競争を想定することは十分可能であろう。表5のようにメキシコ居住者が在米の金融機関に保有する金融資産は、2001年において総額ではメキシコ居住者のメキシコ商業銀行への預金額の半分以上に達しており、メキシコ公共部門及び銀行を除いた額との比較において四分の一程度に達している。このことは金融機関の競争が国境を越えていることの傍証となろう<sup>23</sup>。以上からメキシコ国内での集中は競争性を妨げていない可能性もある。上記のような要因を考えると、競争性の程度については実証的な検討が必要となろう。次節ではこれを検討する。

表5 メキシコ居住者の在米金融機関における米国資産

	メキシコ居住者の在米金融機関における資産額			メキシコ商業銀行預金額
	公共部門及び銀行	その他	総額	
1991	11.0	8.9	19.9	46.8
1992	11.1	8.4	19.5	61.1
1993	20.2	7.8	28.0	71.5
1994	3.9	8.3	12.2	55.2
1995	15.5	9.0	24.5	58.1
1996	21.0	10.3	31.3	68.0
1997	21.7	12.3	34.0	74.7
1998	23.8	13.3	37.1	77.2
1999	15.3	15.4	30.7	81.9
2000	15.8	17.2	33.0	72.1
2001	22.9	18.3	41.2	75.4

注: 単位 10 億ドル、メキシコ商業銀行預金額は M2 に含まれる国内居住者預金額を IMF, IFS の年末為替レートでドルに換算した額。公共部門及び銀行とは「メキシコの公共部門及び銀行」を指す。すなわち、「公共部門及び銀行」と「その他」は、メキシコ国内の資金源の内訳を示している。

出所: Banco de México, *Informe Anual 2001*, Cuadro A67 及びメキシコ中央銀行ウェブ・サイト<<http://www.banxico.org.mx/>>。

## 4. メキシコ銀行業の競争条件

### (1) 銀行業の競争条件の測定に関する先行研究

メキシコ銀行市場のコンテストビリティを測定するために、我々は「新しい産業組織論」に基づいたテストを行なう<sup>24</sup>。特に、我々が利用するのはパンサー及びロッシの示した誘導型の収入関数である<sup>25</sup>。この枠組では、要素価格の変化がどれだけ収入に反映されるかによって市場支配力が測定される。銀行が完全競争かつ長期的均衡にあるときには、要素価格の上昇は粗収入(gross revenue)に対して同程度の変化をもたらす。すなわち、生産量は変化せず、生産物価格は投入財価格と同じだけ上昇する(例: 需要が完全に弾力的な場合)。これに対して、独占的競争においては、個別銀行が産出する生産物の市場は非弾力的であるため、収入は要素価格の変化よりも少なく変化する。独占の場合には、投入財費用の変化に対して無変化もしくは負の変化さえあるかもしれない。以上の議論から、銀行市場の競争条件の程度を測るためには、誘導型の収入関数における単位要素費用に対する粗収入の弾力性の総和(この指数はH統計量とよばれている)を計測することになる。この指数はそれぞれ、ゼロもしくは負である場合には独占、正であるが1より小さい場合には独占的競争、1であれば完全競争を意味する。

デ・バント及びデービスに沿って、投入財を①金融資金(銀行の負債を代理変数とする)②労働(賃金支払を代理変数とする)③その他の生産要素、の三つとする。それぞれの投入財はそれぞれ特定の投入財価格をもつと考える<sup>26</sup>。従属変数としては、粗金利収入(gross interest income)を考慮する。カナダの銀行を研究したネイサン及びナーブや、EU及び米国の銀行を研究したデ・バント及びデービスは本研究と同様に金利収入の自然対数を従属変数としている<sup>27</sup>。EUの銀行を研究したモリニューその他の研究は、従属変数として金利収入の総資産に対する比率を用いているが、その性質上、収入関数の推定ではなく価格式の推定になるので採用しなかった<sup>28</sup>。先行研究と同様に simultaneity bias を減少させるために自然対数化を行なう。

以上のように示した推定方法を用いたメキシコの競争条件を測定した結果は筆者の知る限りこれまでにない。ローハスはマクロデータを用いてメキシコ銀行業の顧客に対する競争条件を研究した<sup>29</sup>。

### (2) メキシコの銀行市場：測定方法、データ、結果

パネルの形に整理されたデータ・セットについて、以下の式が推定される。

$$\text{LnTR} = a + b (\text{LnPF}) + c (\text{Ln PL}) + d (\text{LnPK}) + e (\text{LnEQ}) + f (\text{LnLNTA}) + g (\text{LnDDMF})$$

ここでは、

Ln	= 自然対数
TR	= 貸倒引当金を差し引いた粗金利収入
PF	= 金利費用 / (預金 + 銀行間借入 + その他の買掛負債 + 劣後負債)
PL	= 貸金費用 / (預金 + 融資)
PK	= 非金利支出 / 総資産
EQ	= 資本額
LNTA	= 融資 / 総資産
DDMF	= 預金 / (預金 + 銀行間借入)

従属変数である TR において貸倒引当金を差し引いているのは、ネーサン及びナーブが議論するように、銀行の収益に対して貸倒引当金が重要な影響を与えるからである<sup>30</sup>。独立変数にはすでに述べた投入財価格だけでなく先行研究でも考慮された個別銀行に特有の変数も含まれる。資本額(EQ)は銀行の規模をコントロールするためであり、融資 / 総資産 (LNTA)、預金 / (預金 + 銀行間借入) (DDMF) は各銀行のビジネス・ミックスをコントロールするために含まれている。規模変数の係数は正であることが予想されるが、ビジネス・ミックスの係数の符号については事前には不明確である。

競争条件を示す H 統計量は次のように表される。

$$H = b + c + d$$

ここで、 $H \leq 0$  の場合には独占であり、 $0 < H < 1$  の場合には独占的競争、 $H = 1$  の場合には完全競争と定義される。推計方法については前述のデ・バント及びデービスの研究に従ってパネル分析の固定効果(Fixed Effect)モデルを利用した。

データは、メキシコにおける銀行部門の監督機関である国立銀行株式委員会 (Comisión Nacional Bancaria y de Valores: CNBV) が四半期毎に出版している Boletín Estadístico Banca Múltiple を利用した。サンプル期間は、1997 年第一四半期から 2000 年第三四半期までの 15 期間であり、銀行数は 31 行である<sup>31</sup>。この他に、サンプルを 1997 年第一四半期時点で総資産が 100 億ペソ以上の大銀行 (9 行) と、100 億ペソ以下の小銀行 (22 行) に分けて推計を行なった。大銀行は、全国広範に支店をおき一般個人向けビジネスを展開する銀行が含まれ、小銀行にはメキシコ・シティにのみ営業拠点をおく多国籍企業法人向けビジネスを展開する銀行と地方の小銀行が含まれる。

我々は貸借対照表及び損益計算書からのデータを利用するため、会計基準の変更はデータの性質に影響を与える。CNBV は 1994 年末からの銀行危機の反省に立

ち、会計基準の改良を行なったが、1997年当初から新しい会計基準を導入したため、我々のデータセットはその影響を免れている。

推計結果を表6に示した。フルサンプルにおいてはH統計量は0.1219でありH=0およびH=1が棄却されたため当該期間においてメキシコの銀行部門は独占的競争と解釈される。しかし、大銀行と小銀行にサンプルを分けるとかなり異なった状況が観察される。一方で、大銀行のH統計量はH=1を棄却できないため完全競争を示しているが、他方で小銀行のH統計量はH=0を棄却できないため独占を示している。これは次のように解釈することができよう。メキシコの銀行部門は、全国に支店を拡大し一般個人向けのビジネスを展開する大銀行間では完全競争が行なわれているが、多国籍企業法人部門に特化した銀行及び地方の小銀行は、その顧客に対して独占的な地位を占めている。このような2種類の銀行群が存在することはこれまでの先行研究では観察されたことがなかった。

表6 計算結果

従属変数	フルサンプル	大銀行	小銀行
観測数	441	125	316
LnPF	0.0355 (0.0355)	0.2878* (0.0299)	-0.5378* (0.0490)
LnPL	0.3441* (0.0458)	0.7703* (0.0988)	0.7194* (0.0460)
LnPK	-0.2578* (0.0436)	0.0071 (0.0636)	-0.2082* (0.0406)
LnEQ	1.1271* (0.0213)	0.8525* (0.0418)	0.6866* (0.0560)
LnLNTA	0.3368* (0.0555)	0.1082 (0.1921)	-0.1765* (0.0570)
LnDDMF	0.3796* (0.0634)	0.6365 (0.3405)	0.0295 (0.0552)
R2	0.8958	0.8388	0.7646
H統計量	0.1219 a (0.0521)	1.065 b (0.1180)	-0.0266 c (0.0436)

括弧内は標準誤差

\*は5%基準で有意であることを示す

aはH=0及びH=1が95%基準で棄却されることを示す

bはH=0が95%基準で棄却されるが、H=1が95%基準で棄却されないことを示す

cはH=0が95%基準で棄却されないが、H=1が95%基準で棄却されることを示す

出所：筆者の計算結果。

表7は、我々の研究と比較可能なデ・バント及びデータベースによる他の国の銀行部門の競争度を示している。イタリアを除いた国々では、大銀行のH統計量が小銀行のそれを上回っており、メキシコの計算結果と同様な傾向を示している。し

かし、メキシコの大銀行について観察されたような完全競争はいずれの国でも観察されなかった。

以上のような我々の推計結果は、どのように解釈することが可能であろうか。第一に、大銀行と小銀行との間で競争条件が明確に異なっている事実は、メキシコの銀行部門が仕切られている可能性を示している。このことの含意は、銀行部門のパフォーマンスを考えるとときに代表的な銀行を想定し、その総和として銀行部門全体を考えるよりも、個別銀行をもとにした研究がより正確であることを示唆している。第二に、我々が推定した期間において大銀行において完全競争が棄却できなかったことは、1994年の北米自由貿易協定そして94年末からの銀行危機以降の銀行サービスの対外開放が進展していることと整合的である。また、大銀行の重要顧客である国内大企業は海外からの資金調達を進めており、このことが競争条件を国内にもたらしめているとの推測とも整合的である。この点については一層の詳しい検討が望ましいであろう。第三に、我々の観察期間は、多くの銀行が不良債権を抱え、しかも、貸し出しなどのオペレーションが収縮している、必ずしも正常とは言えない時期であり、また、様々な銀行救済が実施されるなどの様々な歪みが存在した時期である。この点からは、上述した大銀行の完全競争を含めて、推定結果については慎重な解釈が必要であろう。また、どのように競争条件が今後の制度環境の変化によって変容するかは引き続き観察する必要がある。

表7 H 統計量

	大銀行	小銀行	観測期間
ドイツ	0.248 a	0.058 c	1992-1996
フランス	0.358 a	0.019 c	1992-1995
イタリア	0.044 c	0.341 a	1992-1996
米国	0.283 a	0.166 a	1992-1996

注：De Bandt and Davis [2000]のTable 2～5から、我々の推計と比較可能である「固定効果、時間ダミー無し、従属変数＝利子収入、説明変数＝①金利費用／（預金＋銀行間借入＋その他の買掛負債＋劣後負債）、②労働費用（PL）＝賃金費用／（預金＋融資）③非金利支出／総資産、の結果を示した。

出所：De Bandt and Davis [2000]

## 5. 結論

本稿は、1994年末からの経済危機以降の、メキシコ商業銀行部門の二つの変化を記述した。一方では、資産、とくに融資の収縮というバランスシート上の変化があった。他方では、個別銀行の再編により、国際化が進行し、集中度が上昇し

た。集中度の上昇については、その悪影響として懸念される競争条件について、個別銀行に基づいたパネルデータによって実証的検討をおこなった。

融資の収縮の要因としては、①経済危機で明らかになった法整備の不備に起因する高い融資リスク、②銀行の不良債券処理計画の一環として発行された IPAB/FOBAPROA 債券の性質に起因する流動性需要、③経済安定化に伴う銀行の期間構造における近年の変化に起因する利子リスクを指摘した。

個別銀行の再編により、スペイン資本、北米資本を中心とする国際化が進行すると共に、集中度が上昇した。2001年12月末の時点で、メキシコ三大商業銀行はいずれも外国資本の元にある。集中度の上昇は、寡占化への懸念を引き起こす。但し、メキシコの場合は、商業銀行以外の融資提供が高く、また、融資・預金面で米国を中心とする外国銀行との関係が密接なため、メキシコ国内の集中度の上昇が、必ずしも競争条件の低下を意味するかどうかは実証的分析を必要とする。

国際的に比較可能な実証分析の結果によれば、メキシコの大銀行では競争条件が高いことが観察された。北米自由貿易協定を例とするような米国との密接な経済関係があるメキシコにおいては、競争の国際的な側面があるため、一国内の競争条件については実証的な検討が大切であることが今後の研究への示唆となろう。

メキシコにおける不良債権問題の処理は依然進行中である。この意味では、メキシコの銀行の再編もまだ完了していないとも言える。引き続き、個別銀行を基礎とする実証研究が他の視角と補完的な形で行なわれることが重要であることを示唆していよう。

<注>

\* 本論に述べられた意見は筆者個人のものであり、所属する機関の意見を必ずしも代表しない。なお、本稿の査読審査にあたられた二人の匿名査読者から貴重な指摘及び示唆を頂戴した。記して感謝したい。しかしながら、残りうる誤りは筆者の責任にある。

<sup>1</sup> *Expansión* no. 817, p. 45 (13 de junio, 2001)。ルイス・ルビオ(Luis Rubio)は、民間シンクタンクである Centro de Investigación para el Desarrollo, A.C. (CIDAC)の専務理事で、銀行問題に詳しい。

<sup>2</sup> 1990年代初頭の商業銀行の民営化については、その当事者であった Ortiz [1994]が詳しい。

<sup>3</sup> 銀行危機については Gavito, Silva, and Zamarripa [1998]や古田島[1998]がまとめている。

<sup>4</sup> 1990年代のマクロ経済と金融の関係については、Yasuhara [2000]がモデルを用いての実証的検討を行なっている。

<sup>5</sup> 星野 [2000]はデラマドリ及びサリナス政権下の金融について国家・経済関係を研究している。

<sup>6</sup> 一般にメキシコの商業銀行についての統計情報としては表1の出所である国立銀行証券委員会(Comisión Nacional Bancaria y de Valores, CNBV)の Boletín Estadístico Banca Múltiple 資料と、メキシコ中央銀行(Banco de México)が発表する Indicadores Económicos 資料が用いられる。前者は個別銀行の会計も記載されており、また貸借対照表だけでなく損益計算書も収録されている。後者は、貸借対照表のみである。2001年9月において前者資料の商業銀行の総資産額は1兆5690億ペソであったのに対し、後者資料の商業銀行の総資産額は4兆680億ペソであり大きな違いがある。この二つの資料の総資産額の大きな違いは次のように説明できる。前者に比べて、後者は①買戻し約束付き債権及び売り戻し約束付き債務をグロスで表示している、②デリバティブ等の合成商品をオン・バランスで表示している、③貸倒引当金を債務側で表示している、④前者に含まれない政府管理下の商業銀行も含まれる。①～③までを調整すると、後者資料によっても総資産額は1兆8520億ペソと計算される。残る差は④によるものと考えることができる。なお、国際通貨基金の発行する国際金融統計(International Financial Statistics)においては2001年9月末の預金銀行(Deposit Money Banks)の総資産額は約1兆6800億ペソである。同資料の付注には1997年会計基準に従っているとのみ記載されている。

<sup>7</sup> この試算においては、分子に表1に示した1994年9月末および2001年9月末の商業銀行の総資産額を用い、分母に1994年及び2001年の国内総生産額を用いた。なお、2001年9月において注6に示したメキシコ中央銀行資料 Indicadores Económicos を修正した総資産額を用いても8.0%と縮小している。

<sup>8</sup> OECD [2002]は、1999年6月時点の推計で銀行救済の財政費用は国内総生産の約20%に達すると指摘している。

<sup>9</sup> Beim and Calomiris [2001: 336-337]を参照。

<sup>10</sup> Beim and Calomiris [2001: 336-337]を参照。より一般的なメキシコ金融市場の法的側面については、Lopez-de-Silanes [2000]を参照のこと。

<sup>11</sup> このような経緯のため、本稿では同債券をIPAB/FOBAPROA債券と呼ぶこととする。

<sup>12</sup> もうひとつの主要な銀行再建手法であるUDIS計画においてもゼロクーポン債が発行され、キャッシュフローは債権償還まで生じない。Goodhart, Hartmann, Llewellyn, Rojas-Suárez, and Weisbrod [1998]

<sup>13</sup> メキシコ中央銀行ウェブサイト<<http://www.banxico.org.mx/>>より。

<sup>14</sup> Banco de México [2002a]: Gráfica 21.

<sup>15</sup> Banco de México [2002b]: Cuadro 23.

<sup>16</sup> 金利リスクについては、例えばGarber and Weisbrod [1994: 257-258]を参照。

<sup>17</sup> この点について、Krueger and Tornell [1999]は、貿易財部門は国際資本市場から資金を受けることができたので、銀行部門からの融資に頼る必要がなかったことを指摘している。

<sup>18</sup> Montes-Negret and Landa [2001]を参照。非金融民間部門の資金調達における直接金融と間接金融の比較については、INEGI [2000]を用いて、フローベース・名目表示で比べるができる。1993年から1999年まで一貫して直接金融が間接金融を上回っていることがわかる。

<sup>19</sup> Banco de México, *Financiamiento Bancario y Principales Fuentes Alternativas de Endeudamiento del Sector Privado del País Clasificación por ramas de actividad*. メキシコ中央銀行ウェブサイト<<http://www.banxico.org.mx/>>より。

<sup>20</sup> Banco de México, *Encuestas de coyuntura del mercado crediticio*. メキシコ中央銀行ウェブサイト<<http://www.banxico.org.mx/>>より。

<sup>21</sup> Dages, Goldberg, and Kinney [2000].

- <sup>22</sup> Comisión Nacional Bancaria y de Valores, *Boletín Estadístico de Banca Múltiple* をもとに筆者計算。
- <sup>23</sup> Gruben and McComb [1997]は、北米自由貿易協定と共にメキシコの銀行システムの競争条件が次第に高まっていく可能性を指摘している。
- <sup>24</sup> 「新しい産業組織論」については例えば[Tirole 1988]を参照のこと。
- <sup>25</sup> Panzar and Rosse [1987].
- <sup>26</sup> De Bandt, Davis [2000].
- <sup>27</sup> Nathan and Neave [1989]、De Bandt, Davis [2000].
- <sup>28</sup> Molyneux et al. [1994].
- <sup>29</sup> Rojas [1997].
- <sup>30</sup> Nathan and Neave [1989].
- <sup>31</sup> サンプル期間中に統計から消失した銀行についてはサンプルから削除した。欠損値があるため推計における観測値は若干小さい。

#### 参考文献

- Banco de México [2002a]. *Informe sobre la Inflación Enero-Marzo 2002*.
- Banco de México [2002b]. *Informe Anual 2001*.
- Beim, David O., and Charles W. Calomiris [2001]. *Emerging Financial Markets*. New York: McGraw-Hill.
- Dages, B. Gerardo, Linda Goldberg, and Daniel Kinney [2000]. “Foreign and Domestic Bank Participation in Emerging Markets: Lesson from Mexico and Argentina.” *Federal Reserve Bank of New York Economic Policy Review*. pp. 17-36. September.
- De Bandt, Oliver and E. Philips Davis [2000]. “Competition, Contestability and Market Structure in European Banking Sectors on the Eve of EMU.” *Journal of Banking & Finance* 24. pp. 1045-66.
- Garber, Peter M., and Steven R. Weisbrod [1992]. *The Economics of Banking, Liquidity, and Money*. Mass.: D.C. Heath.
- Gavito Mahar, Javier, Aarón Silva Nava, and Guillermo Zamarripa Escamilla [1998]. “Recovery after Crisis: Lessons for Mexico’s Banks and Private Sector.” in Riordan Roett, ed., *Mexico’s Private Sector: Recent History, Future Challenges*. Colorado: Lynne Rienner.
- Goodhart, Charles, Philipp Hartman, David Llewellyn, Liliana Rojas-Suárez, and Steven Weisbrod [1998]. *Financial Regulation*. London: Routledge.
- Gruben, William C., and Robert McComb [1997]. “Liberalization, Privatization, and Crash: Mexico’s Banking System in the 1990s.” *Federal Reserve Bank of Dallas Economic Review*. pp. 21-30. First Quarter.
- 星野妙子、「メキシコの金融制度にみる開発と国家」、東茂樹編『発展途上国の国家と

経済』収集、アジア経済研究所、2000年。

Instituto Nacional de Economía, Geografía, e Informática (INEGI). *Sistema de Cuentas Nacionales de México, Cuentas por Sectores Institucionales 1993-1999*. 2000.

古田島秀輔、「メキシコの民営・民活化」、堀坂浩太郎・細野昭雄・長銀総合研究所編『ラテンアメリカ民営化論』収集、日本評論社、1998年。

Krueger, Anne and Aaron Tornell [1999]. “The Role of Bank Restructuring in Recovering from Crises: Mexico 1995-98.” *NBER Working Paper* No. 7042. March.

Lopez-de-Silanes, Florencio [2000]. “Reforming and Deepening Mexico’s Financial Markets.” *Council of Foreign Relations Working Paper*. Sep.

Molyneux, Phil, D.M. Lloyd-Williams, and John Thornton [1994]. “Competitive Conditions in European Banking,” *Journal of Banking and Finance*. 18. pp. 445-459.

Montes-Negret, Fernando, and Luis F. Landa [2001]. “Banking Sector.” in Marcelo M. Giugale, Oliver Lafourcade, and Vinh H. Nguyen. eds. *Mexico: A Comprehensive Development Agenda for the New Era*. World Bank.

Nathan, Alli, and Edwin H. Neave [1989]. “Competition and Contestability in Canada’s Financial System: Empirical Results.” *Canadian Journal of Economics*. XXII. No.3. pp. 576-594.

OECD [2002]. *OECD Economic Surveys: Mexico*.

Ortiz Martínez, Guillermo [1994]. *La reforma financiera y la desincorporación bancaria*. México: Fondo de Cultura Económica.

Panzar, John C., and James N. Rosse [1987]. “Testing for “Monopoly” Equilibrium.” *Journal of Industrial Economics*. Volume XXXV. pp. 443-456. June.

Rojas, Mariano [1997]. “Competencia por clientes en la industria bancaria de México.” *El Trimestre Económico*. 64 (1). pp. 47-73. Jan-Mar.

Tirole, Jean [1988]. *Theory of Industrial Organization*. MIT Press.

Yasuhara, Tsuyoshi [2000]. “Política monetaria y la cartera vencida en México: un enfoque poskeynesiano,” *Anales de estudios latinoamericanos*. No.20. pp. 57-88.